

# 園だより



第 1 2 号

平成 3 1 年 2 月 2 8 日

ばんけい幼稚園

## 豊かな原体験が豊かな言葉に

米森 久仁子

帰る支度の時にリュックのファスナーが噛んでしまった女の子が、『先生、ファスナーが動かない…』と私のところに助けを求めてやってきました。直してから『出来たよ。』と手渡すと、ほっとした表情で自然に『ありがとう。』と言ってその場を離れていきました。たった一言の「ありがとう」からお礼の気持ちが伝わってきて、温かくて嬉しい気持ちになりました。ご家庭で『ありがとう』の言葉を大切にされていることを感じました。

言葉は人とのコミュニケーションをとるための大切な手段です。黙っていても分かってもらえない感謝の気持ちが、言葉にすることで相手に伝わっていきます。

コミュニケーションの言葉には、『ごめんね』と相手に悪かったというお詫びを伝える大事な言葉もあります。他にも『一緒にあそぼう・入れて・かして』など誘ったり、頼んだりする友達と関わる時に必要な言葉もあります。また、『じゅんばん・みんなのもの・～はしてはいけない』など自分の気持ちや行動をコントロールする言葉、『なぜ・どうしてかな・どうしたらいい・～してみよう』など思考する言葉もあります。他にも名詞や数量、擬音語や擬態語、動詞、形容詞など様々な言葉があります。実体験から言葉を覚えて、その場に合った言葉を使えるようになっていきます。幼児期に身に付けた言葉はコミュニケーションや感情をコントロールするのに影響を与え、豊かな言葉は学びや思考の土台になるとのことです。

先日、山に尻滑りに出掛けたところ、『ここで山ぶどうを見つけて食べたね。』『探検してツルのブランコで遊んでおもしろかったね。』と目を輝かせて話していた子どもたちです。楽しかった経験が心に残っており、表情豊かに言葉でその時のことを表現していました。

園舎前の坂でソリ滑りをしていた子達は『一緒に滑ろう!』と声を掛け合い、『うあ～。キャー。』『もう一回滑ろう。』『楽しいね!』と滑っていました。一人では味わえない一体感や楽しさが歓声と笑顔に表れていました。ソリ遊びを通して、言葉のやりとりをしてコミュニケーションを楽しんでいました。

自然の中での原体験を通して、感性が豊かになり、自分の気持ちを伝えたいという思いが強まり、豊かな言葉になって表れているように思います。

園でもご家庭でも、子どもの伝えたい気持ちを受け止めて、話しやすい雰囲気を作り、目を見て会話をする時間を大事にしていくように心掛けたいものです。そして、聞き上手になり、『どうして?』など疑問を投げ掛けられた時も、なるべくすぐに答えを出すのではなく考えたり試したりする時間を待ってあげたいものです。子どもは、試行錯誤したり、創造したりして、考えたことを伝えて、共感してもらうことで喜びも増すと思います。また、語彙を増やしていくことで表現の幅が広がって、今の気持ちを伝える楽しみや喜び、充実感を味わってほしいと思います。